

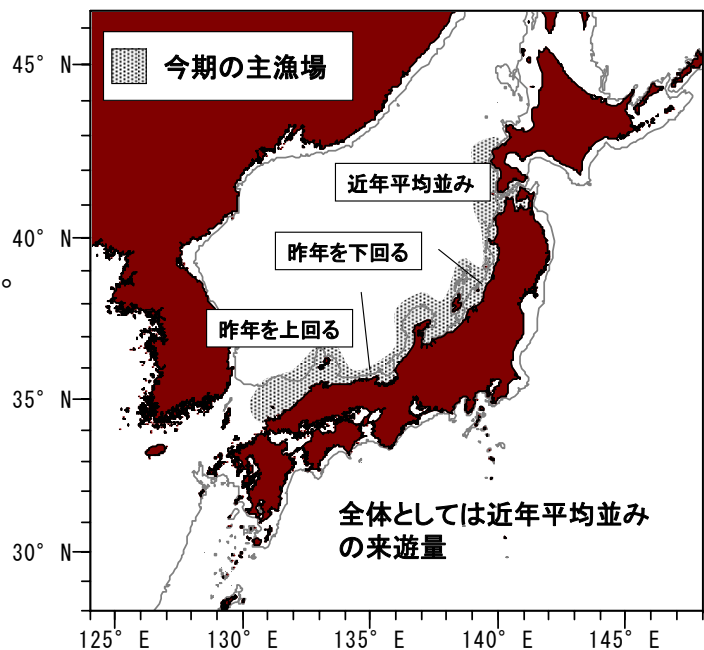
平成19年度第1回日本海スルメイカ長期漁況予報

－ 別表の水産関係機関が検討し独立行政法人水産総合センター
日本海区水産研究所がとりまとめた結果 －

今後の見通し(2007年5月～7月)

対象魚種：スルメイカ
対象海域：日本海
対象漁業：主にいか釣り漁業
対象魚群：主に秋季発生系群

- (1) 来遊量：
近年平均並み（昨年をやや下回る）。
山陰は昨年を上回るが、
北陸では昨年を下回る。
- (2) 漁期・漁場：
北上が早く、漁期は早い。
- (3) 魚体の大きさ：
小型が多い。



問い合わせ先

水産庁 増殖推進部 漁場資源課 沿岸資源班 担当：青木、田中、佐藤
〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1
電話：03-3502-8111(内線7375)4月30日まで、(内線6800)5月1日から
直通電話：03-3501-5098、ファックス：03-3592-0759
電子メール：yuusuke_satoh@nm.maff.go.jp

独立行政法人水産総合研究センター 日本海区水産研究所 業務推進部
〒951-8121 新潟市中央区水道町一丁目5939-22
電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950、電子メール：www-jsnf@fra.affrc.go.jp

本予報は水産庁のホームページ(<http://www.jfa.maff.go.jp/release/index.html>)、独立行政法人水産総合研究センターにおける我が国水域資源調査推進委託事業のホームページ(<http://abchan.job.affrc.go.jp/>)、及び日本海区水産研究所のホームページ(<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/index.html>)に掲載されます。

参画機関

北海道立中央水産試験場	鳥取県水産試験場
青森県水産総合研究センター	島根県水産技術センター
秋田県水産振興センター	山口県水産研究センター
山形県水産試験場	長崎県総合水産試験場
新潟県水産海洋研究所	社団法人 漁業情報サービスセンター
富山県水産試験場	水産庁 増殖推進部 漁場資源課
石川県水産総合センター	独立行政法人 水産総合研究センター
福井県水産試験場	北海道区水産研究所
京都府立海洋センター	東北区水産研究所
兵庫県但馬水産技術センター	日本海区水産研究所

平成 19 年度第 1 回日本海スルメイカ長期漁況予報

今後の見通し（2007 年 5 月～7 月）

対象魚種：スルメイカ

対象海域：日本海

対象漁業：主にいか釣り漁業

対象魚群：主に秋季発生系群

- (1) 来遊量：近年平均並み（昨年をやや下回る）。
山陰は昨年を上回るが、北陸では昨年を下回る。
- (2) 漁期・漁場：北上が早く、漁期が早い。
- (3) 魚体の大きさ：小型が多い。

* 近年は最近5年間(2002年～2006年)

I 漁況予報

漁況の経過および資源調査結果（昨年秋の日本海スルメイカ稚仔分布調査結果、今年4月のスルメイカ新規加入量調査）を主要な情報として、今期（2007年5月～7月）の日本海におけるスルメイカの漁況を下記のとおり予測した。

【予測】

今期（2007年5月～7月）の日本海におけるスルメイカの漁況は、全体としては昨年をやや下回り、近年平均並みと予測する。来遊量は、山陰では昨年を上回るが、昨年豊漁であった北陸では昨年を下回る見込み。漁期は早く、魚体は小型が多いと予想される。

【情報】

- (1) 昨年の3月～4月は山陰における漁獲量が近年平均を大きく下回ったが、今年は近年平均を上回る水準で経過した。
- (2) 対馬暖流域の水温は、今後もやや高めで推移すると予測されており、魚群の北上が早いと予想される。
- (3) 昨年秋に実施したスルメイカ幼生の分布調査結果から判断すると、産出された幼生量は近年平均を下回るものの、1990年代の水準は維持していた。
- (4) 今年4月に実施した新規加入量調査結果では、漁獲対象前のスルメイカ（主に外套背長2cm～10cm）は大和堆南部を中心に分布し、全体の分布密度は昨年および近年5年平均を上回った。しかし、今期に漁獲加入する外套背長5cm以上の個体は近年平均並みであった。

II 説明

1. 漁況の経過

3月以降になると予報期間の前半（5月まで）に漁獲対象となる春・夏生まれのスルメイカが山陰以西で漁獲されはじめる。

昨年の3月～4月は山陰（兵庫県～山口県）で漁獲量が近年平均を大きく下回ったが、今年は近年平均を上回る水準となっている（図1）。また、境港では4月に入っても昨年を上回る水準を維持している（図2）。したがって予報期間の前半は昨年を上回り、近年平均並みの漁況が予想される。

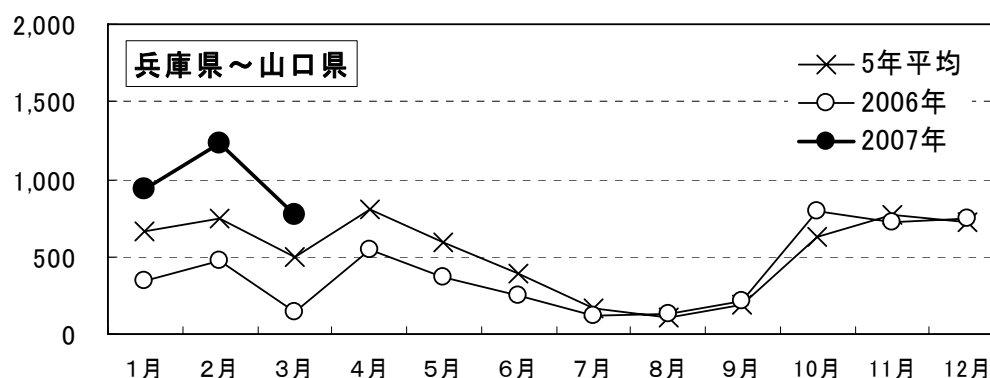


図1 山陰（兵庫県～山口県）におけるスルメイカの月別漁獲量。

各県試験研究機関集計資料より作成。

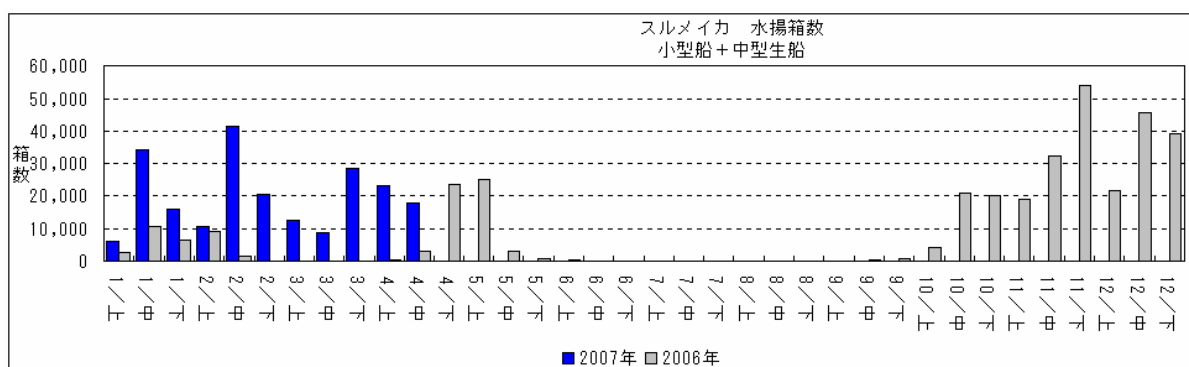


図2 鳥取県(境港)におけるスルメイカの漁獲量

鳥取県水産試験場のホームページ<http://www3.ocn.ne.jp/~tthome/sakairyomoyou/sakairyomoyou.htm>より抜粋

2. 海洋環境

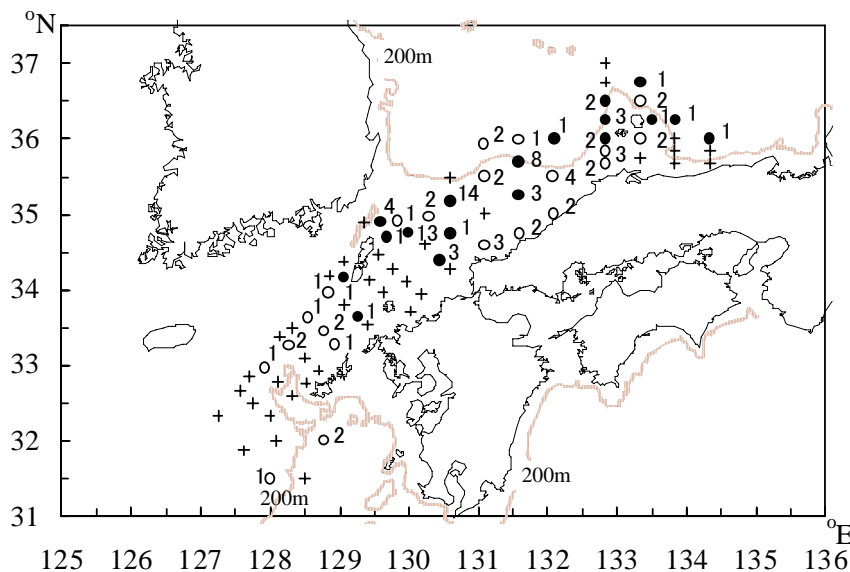
平成19年度第1回日本海海況予報（<http://jsnfri.fra.affrc.go.jp/press/040402.pdf>）によると、2月の表面水温は、能登半島から佐渡周辺海域でかなり高めの海域が広範囲に分布していた。また、今後（4月～6月）の見通しでも対馬暖流域の水温はやや高めで経過すると予測されている。したがって、今期のスルメイカの魚群は北上が早く、各地の漁期も早まることが予想される。

3. 昨年秋の幼生分布量

日本海では前年の秋～冬に生まれたスルメイカが主に漁獲される。したがって、前年の秋～冬に生まれたスルメイカ幼生の分布量から翌年の資源量および漁況を予測することが可能と考える。

2006年10月～11月に実施したスルメイカ幼生の分布調査^{*1)}の結果(図3)では1調査点あたりの平均採集個体数は1.35個体/曳網であり、近年平均(2.31個体/曳網)の58%、2005年(1.72個体)の79%であった(図4)。よって昨年秋に産出された幼生量は1990年代以降の水準を維持しているものの、一昨年および近年平均を下回ったと判断される。

*1) 幼生の分布調査：口径45cmのプランクトンネット(網目0.33mm)を用いた採集調査。各調査点で水深150mまでの鉛直曳によって外套背長1～3mmのスルメイカ幼生を採集する。



スルメイカの孵化幼生
(外套背長約1mm)

図3 2006年10月～11月におけるスルメイカ幼生の分布調査結果

○幼生が採集された調査点、●孵化直後の幼生が採集された調査点、+幼生が採集されなかった調査点、
図中の数字は各調査点における採集個体数

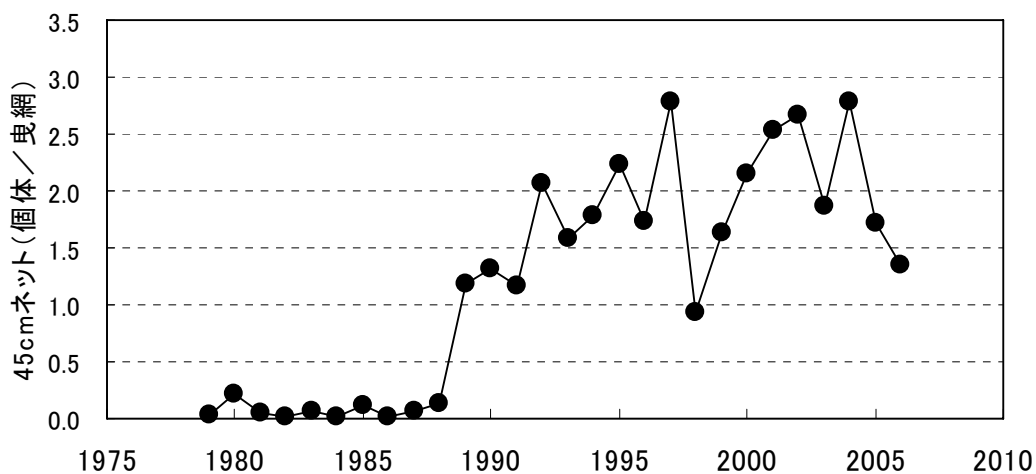


図4 スルメイカ幼生の1調査点あたりの平均採集個体数の経年変化

4. 加入前の分布量

イカ釣り漁業では外套背長 15cm 以上のスルメイカが主な漁獲対象となる。したがって、イカ釣りで漁獲対象となる前の大きさのスルメイカの分布量を把握することで漁期前に漁況を予測することが可能になる。

2007 年 4 月に実施したスルメイカの新規加入量調査^{*2)}の結果 (図 5) では、漁獲対象となる前のスルメイカの 1 調査点あたりの平均採集個体数は 54.5 個体であり、昨年 (17.4 個体) の約 3 倍、最近平均 (33.7 個体) の 162%であった (図 6)。しかし、今年は外套背長 2~3cmの個体が多く、今期に漁獲加入する外套背長 5cm以上の個体は近年平均並み (20.0 個体、100%) であった。主な分布海域は大和堆南であり、これらは今後、北陸以北に来遊し、漁獲対象となることが期待される。

*2) 新規加入量調査：口径 10m~12m の表層トロール網を用いた採集調査。各調査点で 3ノットの速度で 30 分間曳網して外套背長 2~10cm のスルメイカを採集する。

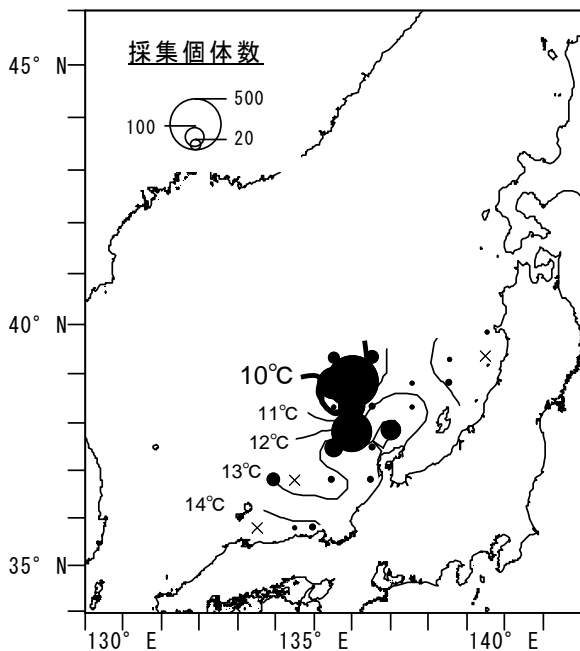


図 5 2007 年 4 月のスルメイカ新規加入量調査結果 (採集個体数と表面水温分布)

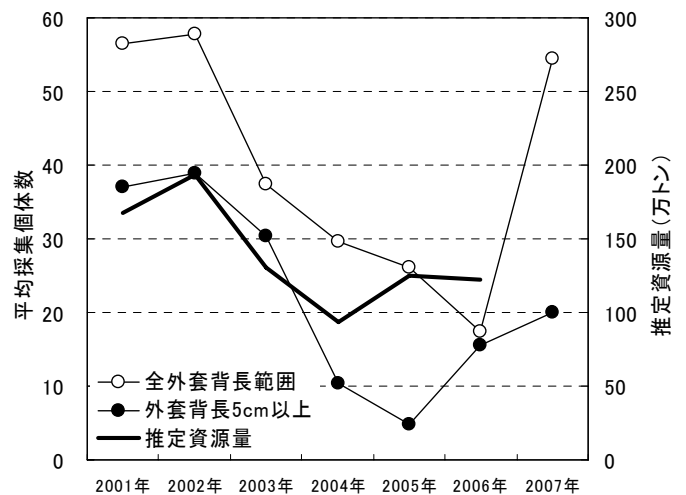


図 6 新規加入量調査における平均採集個体数と推定資源量の経年変化

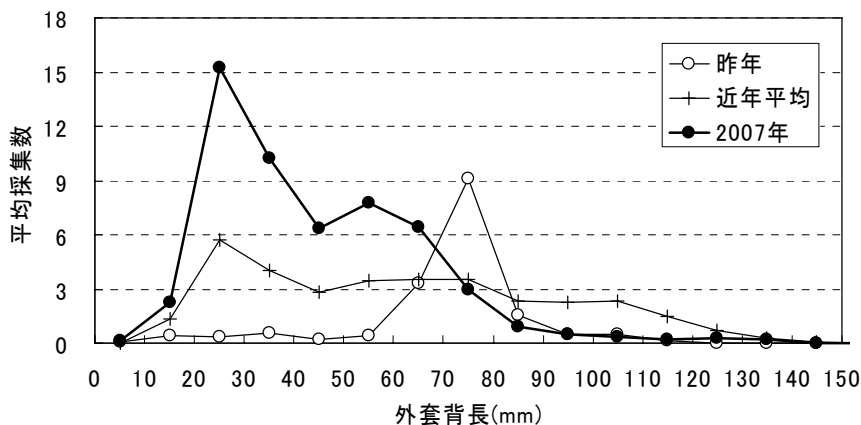


図 7 新規加入量調査における外套背長階級別平均採集個体数

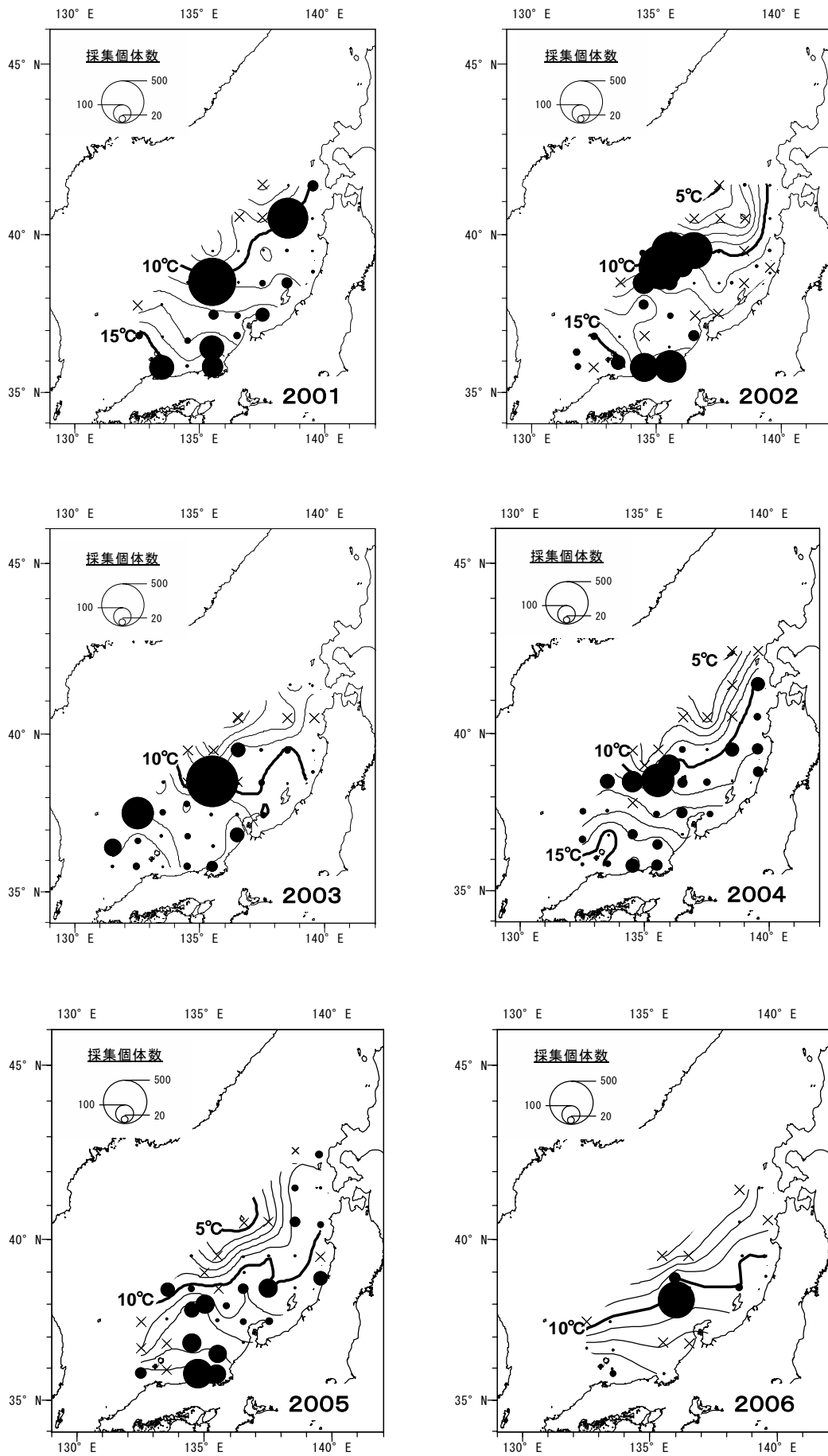


図 8 2001 年～2006 年のスルメイカ新規加入量調査結

(採集個体数と表面水温分布)